

# 北海之光

6月号 北海道教区報

主にあってはあなたがたの  
 労苦がむだになることはない  
 コリントI 15章58節

発行所 北海の光社  
 001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12  
 日本聖公会北海道教区事務所  
 電話 011-717-8181  
 F A X 011-736-8377  
 E-mail:hikari@nsskk-hokkaido.jp  
 http://www.nsskk-hokkaido.jp  
 発行人 植松 誠

## 「随想 ハルニレの切株にて」

聖マーガレット教会牧師  
 岩見沢聖十字教会管理牧師  
 司祭 ヨハネ 池田 亨

昨年九月、あの大地震の前夜、台風二一号が日本海・北海道沖を北上、強風により多くの樹木が倒れました。

私の大好きだったハルニレの大木も、根こそぎ倒れてしまいました。その大木とは江別の大麻駅南口近く、国道一二号線から南へ折れて、道立図書館へ至る道路入口沿いにあったハルニレの街路樹です。それは七本の街路樹にすぎないのに、夏など木陰の大きなトンネルでありました。倒れた街路樹の運命は悲しいかな…。いまは新しい切株が一つあるだけです。

一五年前になります。足かけ三年、大麻駅を利用していました。近隣の道立埋蔵文化財センターに勤めていたからです。大木のハルニレの街路樹は本州育ちの私には珍しく、

あえて通勤路を迂回してその木陰を歩いたものでした。四季折々の自然を味わうことができたからです。幾度となく大木の樹皮にふれては、耳をつけてみたりしたものでした。

それに、この五年、岩見沢への自家用車での通勤においては、その近くを通過するのを、小さな楽しみとしておりました。とりわけ、帰路、夕暮時のハルニレの木々のシルエットは前景の酪農大の農場の風景と相まって、その美しさに、慰められてきました。

春になって、失われたハルニレが気になりました。です。「あの木は、何年、生きていたのだろうか」と。思いは、ついに岩見沢からの帰路、調査するに至りました。少し大げさですが。

残された切株を計測してみ

ると、その径は最長一一八センチ、最短八三センチの楕円形。年輪を数えてみると、樹齢七〇年程。各年輪の幅の差異は立地の方位・気候の変動を記録し、一所懸命、風雪に耐え、約半世紀を経て大木となったことを証していました。そして、樹高三〇メートルを支えた痕跡は堂々としておりました。

切株にて、ぼつねんと佇み想うのでした。私の記憶の断片においても、晩春の新緑、恋の唄を歌う小鳥たちを祝福していた。真夏の深緑、大きな木陰をつくり、蝉の合唱団に会場を、クワガタには樹液を与えていた。晩秋、いろいろ豊かな絨毯を敷き、この私をも歓待してくれた。長い冬、常緑のヤドリギと共生している姿を現していた。多くのいのちとつながっていたハルニレでした。「いのち」は「いのち」を育てていました。

いつしか、かの不朽の名作、シルヴァスタインさんの絵本『おおきな木』を思い出しておりました。大好きな少年に惜しみなく与え続けたリンゴの

木の物語です。大人になった少年は木をモノ扱いするようになっても、それでも、木はわが身を与え続け「うれしかった」と。最期、与えつくして切株になってても、なお、木は老人になった少年に腰掛となって自らを提供し「うれしかった」と。

あたかもイエスさまのころを生きたかのよう。やさしさの極み、徹底した受容…そのシンボルとしての切株。

ふと、暗誦し得る数少ない詩篇のみことばが、私の裡にこだましてきました。

主はよるずのものにめぐみあり

そのあわれみは造りたまえるすべてのものの上にあまねし

詩一四五・九

ハルニレの切株を見つめながら、全被造物への神のいくしみを思うのでした。

失ってこそ、やっと、知り得ることがあります。存在の重さ、はかなさ、いとおしさを。いのちの関係を。

私は切株に、そっと、ふれて、腰かけてみたのでした。

—心の窓をひらけ—

# 福音と私(二二七)



—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

新札幌聖ニコラス教会信徒

セシリヤ 菅原 佐都子



好きな聖句

喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙

二二章一五節

私とイエス様

私の母の津田家系は、北海道入植後厳しい開拓の中でキリストの福音に触れ一家で聖公会に入信しました。その信仰は私で五代目、息子たちで六代目となります。

幼い頃は、教会(当時の大谷地伝道所)を神様の元で遊ぶ所、と認識し礼拝には真面



と尊敬の思いを持ち、同じ道に進むことを幼い頃から意識していました。

受洗から二年後、一三歳で聖公会の堅信を受けた私は、マザー・テレサの本を読み、初めて心を強く動かされる体験をしました。そして、彼女の修道会に入りたいと願って看護師を志します。その思いは堅信を受けた当時から変わらず、市立名寄短期大学看護学科へ進学し、三年間を道北の地で沢山の人の支えられて過ごしました。

看護師としてのジレンマ

卒業後は札幌の総合病院の救命救急センターとICUへ配属されましたが、そこは私の想像を超えた厳しい世界でした。事故や病気で全力を尽くしても助からない命、重い後遺症を抱える人、家族や世間から見捨てられ絶望し自殺する人、最愛の人を亡くす人、他にも病の中で様々な苦しみの中にある人を前に、自らの無力さを思い知らされました。また、曜日も昼夜の区別もつかない過酷な勤務の中、まるで私の前を歩くイエ

ス様を見失った状態でした。そんな状況の当時、夫と出会いました。彼は周囲も憚らず私の声を天使のようだといい、心身削って働く姿を清らかで美しいと励まし続けました。私はイエス様を見失ったのに、夫には私を支えるイエス様が見えていたのかもしれない。二〇〇九年、雨宮大

朔司祭の導きで聖婚式をしていただき、今では二人の大切な息子たちも授かりました。再びイエス様に呼ばれて

新札幌聖ニコラス教会は私の母教会ですが、長い間信仰生活を離れていた私に、イエス様は上平執事をはじめ、様々な形で呼び掛けてきました。私は幼い頃のようにその呼びかけに素直に従い家族揃って祈りました。

昨年一二月九日夫と息子たちが受洗、夫が堅信の恵みに与りました。

この日、神様は奇跡のような素晴らしい恵みを授けてくれました。この事は私に、マザーの修道会に入るとか、海外医療支援とか立派な仕事でなく、私の器に相応しく最も

身近で平凡な愛を実践するよう神様が望んでいるように感じました。

今も育児をしながら看護師を続けていますが、家族がなく病む人の中に、イエス様がいらっしやると感じる時に共に喜び、共に悲しみ最後の瞬間まで心を尽くして看護する喜びを得るようになりました。

聖家族として

夫の洗礼名はヨセフ、子どもたちはイエス様の兄弟ヤコブとシモン、伯父津田武典が名付け親です。この家族に幼いイエス様が共にいると信じる時、小さな愛を家族だけでなく教会や社会において実践するよう聖霊が働くのを感じます。

少子高齢化の現代、私たちに備えられた力を生かし共に生きる温かい社会のほんの一端を担えるように。特に夫の故郷稚内を思い、主よ、私たちに導きを与えてください、そして御心ならば私たちをあなたの道具として用いて下さいと祈る日々です。

常置委員会報告

第七回 五月二六日

《協議事項》

- 一、「教区礼拝」のふりかえり
- ・出席者約二五〇名。天候もよく、恵まれた集会であった。
- 二、三浦千晴聖職候補生の夏期実習の件
- ・下澤司祭の指導のもと、札幌聖ミカエル教会にて行う。期間は約一〇日。
- 三、稚内聖公会・厚岸聖オースチン教会の件
- ・両教会の現状と諸般の課題

について協議。継続審議とする。

四、平取聖公会地震による被災修復に関する件

・担当者に被害状況の調査を依頼。調査結果を踏まえ、慎重に検討する。継続審議とした。

五、エンディングノートに関する件。

・作業は進んでいるが、新たな課題も少なくなく、さらに慎重に検討していきたい。



主教室より

この六月五日は私の執事按手三七周年です。ラウンド・カラーを着けた自分の姿を初めて鏡で見た時の何とも複雑な気持ちを覚えています。今日からは聖職者として生きるということに喜びはもちろんありましたが、それ以上に、漠然とした違和感と不安を覚えたのも確かでした。

その年の九月から、大阪教区の教会で牧師補としての働きが始まり、私は執事職の豊かさに目が開かれていきました。最初は、執事はいずれ司祭になるのだから、それまでの準備期間だと心のどこかで思っていたのですが、それはとんでもない間違いでした。三聖職位(執事、司祭、主教)は、

その一つひとつが、異なった独立した働きを与えられていて、それらは教会にとって欠くことのできない重要な要素となつていきます。まさに、教会の歴史の中で、三聖職位があったからこそ、教会は十全な働きができてきたと言えるのだと思います。

執事としての働きはいろいろありますが、聖餐式の中でそれらはよく表されています。執事は、聖餐式で福音書を読みます。会衆が起立する中でキリストの福音を厳かに読んで聞かせます。つまり、人々の中に入って行って福音を伝える先鋒になります。代祷を捧げるのも伝統的には執事です。人々の生活の中にある祈りの課題を自ら調べて、それを教会に伝え、皆で祈

るのです。懺悔(ざんげ)を呼びかけるのも、捧げもの(献金)を呼びかけるのも執事です。そして、聖餐拝領では、聖卓を整え、聖杯(チャリス)を捧持します。それは、イエス様のご聖体、即ちイエス様ご自身を、病人やお年寄りなど、教会に来られない信徒にお届けする執事の役目を表しています。最後に、「主とともにいきましょう」と人々を励まして送り出すのも執事です。

今、北海道教区には阿部恵子執事と上平更執事がいます。お二人がこの祝福された執事職を精一杯、大いに楽しむことができるようにと祈っています。

主教 ナタナエル 植松 誠

十 教区逝去教役者記念聖餐式

七月二〇日(水)

午前一〇時三〇分  
於 主教室聖堂  
次の方々を覚えて祈ります。

- 司祭 林 稔
- 伝道師 小川 淳 一
- 一九七八年七月一日
- 主教 渡 辺 政 直
- 一九九二年七月三十一日
- 司祭 今 井 四郎太
- 一九四六年七月一日
- 司祭 野 村 義 雄
- 一九六二年七月一日
- 伝道師 黒 田 富 雄
- 一九九四年七月一日
- 司祭 木 村 定 三
- 一九四五年七月一日
- 伝道師 ジェーン
- 一九六三年七月二四日

道北四教会合同礼拝のお知らせ(全国の皆様へ)

- 一、日時
- 八月二四日(土) 一七時〜開会礼拝
- 八月二五日(日) 九時半〜合同礼拝
- 一、場所
- 二四日 豊富温泉
- 二五日 稚内聖公会
- 一、参加費他
- 現地集合、現地解散、豊富温泉一泊二食付で約一万円

今年も日本聖公会最北の教会の維持のためにも北海道のみならず、参加の輪を広げようとの思いから、全国の皆様にもご案内いたします。詳細は、個別に案内いたしますのでご連絡ください。

事務局 旭川聖マルコ教会  
司祭 ミカエル 広谷和文  
事務局 テトス久未 一



# 二〇一九教区礼拝を終えて 五月八日(土)・主教座聖堂

報告者 旭川聖マルコ教会  
ヤコブ 山崎 典美

私は今回初めて実行委員長を仰せつかりました。今までは事務所の一員として教区礼拝の運営をお手伝いしてきましたが、戸惑うことばかり多かったです。

室のテーブル・机の配置など本当に色々ありました。そのためにも多くの人々のお手伝いを頂き感謝しております。

前日の準備、献金袋・食券の確認、そしてバナーの吊るし金具の確認(なぜクリップに大小の二種類があるのかその時は分かりませんでした)が、それを三階の手すりに括りつけました。その後集会

当日の準備は朝早くから札幌聖ミカエル教会婦人会の音頭取りで市内四教会の婦人会の皆様による昼食準備から始まり、受付の方々にも集合頂き、おおよその準備が整いました。

その後、礼拝に関してのアイコンスがあり、いよいよ礼拝モードに入りました。



中部教区渋澤一郎主教様の説教

聖職者等の入堂が終わりバナーも三階に吊るし終え順調に礼拝が進められると思っていた矢先、聖歌斉唱の最中に一つのバナーが突然落下したのです。幸いに直接人に当たらずに

て一安心しました。その原因は吊り具のクリップが小さくバナーを支えきれなかったためでした。その後適切に対処され礼拝終了まで無事でした。これも新米実行委員長によるものでしょうね。

今年の説教者は中部教区主教的渋澤一郎師父でした。主教的様は北海道教区と中部教区には歴史的に深いつながりがあることを紹介されました。引き続き福音書をテキスト



三階に並ぶ各教会のバナー

トに「我々は、神の国実現のためはげまされている、イエスのみ言葉聞き分け、イエスを証し、イエスに従ってゆこう」と語られました。礼拝に出席した約二五〇名の信徒一人一人が、この事を大切に信仰生活を送ればと思えました。礼拝後のハレルヤコーラスは立場の違いかもしれませんが、例年になく心にしみました。

食事前のお祈りが札幌聖ミカエル教会の三名の子どもによりなされ、おいしいハヤシライス、デザートを頂きました。

次にお持ちかねのバザー、晴天に恵まれ(風が少しありましたが)販売員も、購入者



聖職団による昇階唱奉唱

も、楽しく大きな声を上げ行われました。あつという間に予定されていた時間が過ぎました。今年は通りがかりの観光客も購入してゆきました。

バザー終了後、植松主教様による閉会の祈りをもって全てのプログラムを終えました。新米実行委員長にも拘らず皆様のご協力で無事成功裡に終了できましたことにあらためて感謝いたします。来年の再会を願いつつ散会しました。

感謝 北海の光献金(敬称略)

### オホーツク三教会 合同礼拝報告

北見聖ヤコブ教会・  
網走聖ペテロ教会牧師  
司祭 フランシスコ 飯野正行

五月二六日(日) 網走聖ペテロ教会を会場に、紋別聖マリヤ教会・北見聖ヤコブ教会・網走聖ペテロ教会の皆様が一堂に会し、みんなて語ろうをテーマに「オホーツク三教会合同礼拝」が行われ、二八名が集いました。

午前は阿部・飯野両司祭の司式、内竹康雄さんのサーバー、飯野まゆみさんの奏楽奉仕で聖餐式が行われ、日課朗読もそれぞれの教会で受け持ち、説教者の阿部司祭は幼稚園の子どもたちとの関わりを通して「かわいさ」というわかりやすい表現を通して、私達が「栄光から栄光へと」変えられて行く真理について、深く感じ入るお話をされました。

礼拝後、集合写真を撮り、おいしい食事をいただいでから、和田弓さんの司会進行により「トークタイム」となり

ました。オホーツクは広く、そう簡単にはお交わりの機会が無いことや、普段そんなに多くはない人数で教会をを守りしていることなどから、様々な苦労話や、いろいろな趣味のお話などに耳を傾けることが出来ればとこの会を計画したので、フタを開けてみますと、格調高いお話ばかりで、海外宣教や親族との宗教的葛藤や昔の資料を持参する方など内容盛り沢山でした。高齢化や健康上のことなどで困難な点が押し掛かかって来ているのも事実なのですが、労り合い支え合っている事実は宣教の最前線の姿であると信じています。両司祭夫人寿子さんと旅行者のご参加なども心より感謝でした。

### 胆振三教会合同礼拝報告

二〇一九・五・二六(日)

司祭サムエル 吉野暁生

道内で最高気温のニユースが飛び交いますが、二〇度前後の過ごしやすい気温の中、二〇一九年度の胆振三教会合

佐藤百合子(川崎市)

同礼拝が苦小牧聖ルカ教会で行われました。教会の庭の桜は散ってしまいましたが、チューリップや水仙、ムスカリなどがきれいに花を咲かせています。久しぶりに合同礼拝に主様をお迎えすることができ、感謝です。会場は苦小牧・室蘭・有珠教会の持ち回りで行うと行っていました。

老若男女合せて四〇名ほどが集まり、賛美の声を上げました。子どもたちが声を上げて走り回る礼拝堂はいい雰囲気です。ただ、高齢化のためか、参加できる人が年々少なくなっている様子です。

礼拝後は新しくなった聖ルカ幼稚園ホールで昼食。苦小牧の皆さんが前日から準備してくださった昼食をみんなでいただきました。新築の園舎を初めて見る人も多かったので、藤林園長の案内で園舎の見学ツアーも行いました。

久しぶりに合う人たちも多く、話の花が咲きました。小さな交わりですが、神さまに守られて、これからも祈り続けていきます。感謝。

### 歴史文書二〇一九(一) 「教区九〇年史」をお持ち ですか。

歴史文書保管委員会  
下 田 尊 久

北海道教区宣教九〇年記念行事の一つとして計画された「九〇年史」は一九六五年に上田主教の任命による若い二人の歴史編纂委員である渡辺政直司祭と信徒桑山隆氏(いづれも当時)による二年にわたる編纂作業により発刊されました。序章に北海道のキリスト教の歴史が概観されており、本文は一八七四(明七)年にCMS宣教師W・デニング師が箱館で伝道を開始したことに始まり、一九六九(昭四四)年までの九五年の歩みが記述されています。それから半世紀が経ちましたが、今も北海道教区のみならず日本聖公会、また北海道や日本のキリスト教の歴史研究において欠かすことの出来ない資料として引用されています。編纂事業のあとを引き継ぎ教区内には歴史文書保管委員会が

設置され、資料の整理とともにこうした事柄の検証が続けられてきました。最近では道外の研究者による調査や問い合わせも増えてきました。その結果、当時収集された資料以外にもこの間の歴史について多くの研究が行われ、また貴重な資料が発見、整理されてきました。このため記述に追加や訂正の必要な箇所も散見されるようになりました。教区事務所にも「九〇年史」は二冊しか保存されておらずお貸しすることは出来ませんが今秋には正誤表の最新版をお渡しできるように準備を進めています。

保存された記録から新たな記録を創り出すのは、委員会の仕事ではなく利用する皆様です。また、「九〇年史」に関連する新しい情報をお持ちでしたらお寄せください。これらの記録を保存する作業は、これからも教区内外の方々に支えられながら、委員および作業チームが進めていきます。



▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

五月は長いゴールデンウィークから始まりました。教会は、四月二十九日から五日の礼拝まで、お休みでした。松井司祭様は、念願の地「広島」へ行ってこられました。これからのお話の中で広島の話がうかがえるのを楽しみにしています。

毎月第一日曜日は、誕生記念日・逝去記念日のお祈りをします。五月お誕生日の方は六名と、他の月に比べ少数ですが、出席は松井司祭様と、遠藤由美子さんの二名。出席率は三三%と高い出席率。ご自分の誕生日に「お誕生日礼拝に」と加わる方があると、

もつと賑やかな集まりになる事と思います。

一八日(土) 札幌で行われた教区礼拝に、釧路聖パウロ教会・厚岸聖オーガスチン教会として、松井司祭、信徒二名参加しました。

釧路、厚岸では、やっと日本一遅い桜も開花。春がやってきました。冬の間体調がすぐれなかった、厚岸の佐田菊男さんは種まきの時節になると健康を取り戻され、今迄、自分のしてこられたのと同じように、畑の準備をされている息子さんや、お嫁さんの様子を楽しそうに眺めておられます。

▽小樽聖公会

五月一七日(金)、春季教役者会聖餐式と研修プログラムが当教会を会場に行われました。婦人会は昼食提供の奉仕をいたしました。教区の教役者の皆様が小樽聖公会を訪ねてくださり感謝です。

今年も、六月一四～一六日の三日間、教会カフェ・ミニバザーが開催されます。物販を縮小しカフェスタイルへと

転換してから、お客さんは物品の購入だけというスタイルから教会内に滞在して下さるようになり、手応えを感じられるようになりました。

▽新冠聖フランシス教会

今年の主教さまの前期の巡回日は五月五日でした。一〇連休中のお終いの主日でしたが、嬉しいことに珍しいお客さまをお連れ下さいました。それは、当教会の初代牧師の小貫雅夫司祭と満子夫人。さらには、かつて平取聖公会に定住されて現在は東京にお住いの小貫ツマ司祭です。一同懐かしく、話が弾みました。

また、熊谷和彦さんがお出でになれないとのこと、久しぶりに弟の泰彦・妙子さん夫妻がお母さんのまき子さんをお連れ下さり、これまた話に花が咲きました。

▽帯広聖公会

五月に入り暖かくなり、桜や色とりどりの花も咲いて明るい春となりました。

一二日は松井司祭の一年半の管理牧師としての区切りとなる聖餐式。礼拝後、愛餐の

交わりと共に感謝の時を持つ。三つの教会の牧会、みことばの礼拝の説教準備、信徒訪問、幼稚園と保育園二つの施設のチャプレンのご奉仕、聖歌を歌う会や聖書研究の指導など大変であったことと思います。有難うございました。

六月からは阿部恵子執事が定住聖職として派遣される。定住牧師が不在であることも初めてであったが、女性聖職が派遣されることも初めて。新たな管理牧師は小樽聖公会の永谷亮司祭となる。教会、幼稚園の宣教・牧会の新たなスタートとなるよう大いに期待している。教役者間の引継ぎや牧師館の清掃や整備も済み着任を待つばかりである。

▽稚内聖公会

五月二日、上平更執事、菅原さん一家、教会見学に訪れる。一三日「イエスの小さい姉妹会」の最後のミサとお別れ会に本原満栄さん、広谷栄子さん、牧師が出席。二人の姉妹は一六日原発禍の福島へ旅立たれた。淋しくなった稚内だが、カトリック教会に定

住の神父さんが赴任。日本キリスト教団稚内教会は、礼拝堂を新築、二六日落成式が行われた。それに先立ち一三日お祝いを伝える。外から車椅子でも入ることのできる会堂に感心する。「道北合同礼拝」への参加者呼びかけ中!

▽函館聖ヨハネ教会

一八日の教区礼拝には当教会から六名出席しました。自慢のブラウニーと椎茸昆布をお買い上げいただきありがとうございます。連休中ももちろんのこと、連日多くの観光客が教会を訪れるのでその応対にボランティアも大忙しです。海外から大型船が入港すると外国のお客様が、今の時期は修学旅行の小中学生が

いっぱい訪れます。皆さんに見ていただくと思うとお庭の手入れにも力が入ります。今は藤棚が見事です。一六日、佐波研三兄の納骨埋葬式が行われました。

▽有珠聖公会

五月六日、地域おこしの一環として、市民グループとの協賛で有珠サイクリングを実

施。教会をスタート・ゴールとして約二〇台の自転車が桜咲き潮風薫る有珠路を巡りま

した。大町司祭が礼拝堂で、サイクリング参加者に教会の歴史について紹介しました。

二六日、苫小牧聖ルカ教会での胆振三教会合同礼拝に二一名が参加。大勢で主を賛美する喜びを分かち合いました。

新築の園舎での愛餐会。三年前の旧園舎の愛餐会を振り返り感激。来年の有珠開催に向け語り合いながら帰途に。

▽札幌キリスト教会

長い一〇連休が終わり、一日に館石健生さん、鎌田しおりさんの聖婚式、二五日に長谷川正文さん、井上侑香さんの聖婚式が行われました。二組の結婚生活が祝福されますように。一二日はキッズデーで、礼拝の中で子ども達の祝福をお祈りしました。

一八日教区礼拝が札幌キリスト教会を会場に開催され、説教者には、中部教区主教澁澤一郎師父をお迎えしました。一九日の愛餐会で帯広赴任の阿部執事の送別会が行われ、

三年六カ月にわたる当教会でのお働きに感謝致しました。

▽札幌聖ミカエル教会

超大型連休中の五月三日、新しい宣教の器として期待される旧国際青年寮の清掃、整理作業を三六名で行いました。すでに少しずつ使われていますが、必要備品を導入、六月下旬には建物の名前も決まってお披露目の予定です。

一〇日、ロザリオの祈り。今回は織田美子さんの証しを聞き、静かな祈りの時をもつ。

一八日教区礼拝には六〇名が参加、今年も子ども聖歌隊が奉唱しましたが、メンバーの減少が気掛かりです。しかし、先生たちはめげずに、幼稚園の協力も得て、あの手この手で日曜学校の充実を図っています。

▽新札幌聖ニコラス教会

プラチナウィーク中の五日、教区礼拝に向けて「ニコラスごませんべい」づくりが始まる。参加自由の声掛けで礼拝後の興味津々での取り組みに。一二日、礼拝後に国際ギデオン協会の清水悦朗兄よ

り奉仕活動について聴講。聖書寄贈に感謝。新緑のなか教会の前庭とバス停に続く花壇にはパンジー、ムスカリ、プリムラ、そして色とりどりのチューリップが咲き始め華やかなお出迎え。一八日、教区礼拝は二一名が参加。手間ひまをかけたごませんべい、

マーメイドの即刻完売に感謝。一九日、横山司祭による聖餐式。二六日、聖書を読む会は福音書ルカ第七章に。

▽留萌キリスト教会

さくら(手芸の会)は、切り絵に挑戦しています。カタナイフを握る手に力ばかり入って、細かく切る場所はほぼ「勘」頼り。そうは言いつつ、色紙を張り付けて見事な出来栄えの方もちらほら、健康のために継続しましょう。

教会墓地で少し大きめの改装を行いました。毎回シーリングしていた石の入り口に替えて、施錠のできる扉を設置。内部の埋骨場所には、石の覆いを設置。ご遺骨が土に戻る場所は、神様の眼差しのみが

届く場所になりました。とても穏やかな五月でした。

▽紋別聖マリヤ教会

寒い日が多い紋別でしたが日増しに初夏の気候になってきました。五月一日、札幌キリスト教会で教区礼拝が行われました。阿部牧師が出席になりました。五月二六日、網走聖ペテロ教会での合同礼拝が三七度の猛暑の中行われました。手作りカレーライス、アイスクリームなど感謝致します。皆様の一言ずつの挨拶、

聖歌を歌い飯野先生のギター演奏、楽しい中で暮がおりました。主に感謝致します。

▽岩見沢聖十字教会

五月一日、教区礼拝には三名出席、ミニバザーにも参加。翌一九日は植松主教様巡回日で三千代さんと来岩。お説教はキリストの平和と愛。愛餐会は、園の先生も交えてお赤飯で宣教一四五年を祝いました。主様からTV出演のDVDを、先の復活日に大友司祭より文字の大きな福音書を寄贈頂き感謝です。二五日、井上雅博さん育子さんの

長女侑香さんの結婚式が札幌キリスト教会で。祈神様の祝福。幼稚園は一日、総勢六八名が参加して園庭ワークショップを行いました。

世の中一〇連休であった人、なかった人、様々でしたが、そんなお休み中、教会境内の木の根の重機を使用しての処理作業を山崎秀志郎兄が奉仕。感謝。思い起こせば二〇一二年の暴風での倒木被害。なかなかかたづけが進まず、残木焼却時の焼き芋が恒例化してしまいました。いよいよ植樹の準備が近づいてきました。一八日は札幌キリスト教会にて教区礼拝。当教会からは三名の出席でした。大福はあつと言う間に完売でしたが、前日の作業では数が作れず残念。礼拝は一二日、二六日、守られました。

▽聖マーガレット教会

三日、有志一〇名で、円山公園にてお花見。ジンギスカンとビールで親睦をはかる。五日、退院した、上平佑子姉が元気に出席されました。

三日、有志一〇名で、円山公園にてお花見。ジンギスカンとビールで親睦をはかる。五日、退院した、上平佑子姉が元気に出席されました。

教区礼拝には、一八名参加。

一九日久しぶりに東京より石塚幹信兄が出席され、聖歌がいつもより心地良いものとなりました。

二六日、真夏の暑さの中、礼拝後に外回りの清掃をしました。皆、熱中症にならず、ひと安心。第三日曜日は、聖歌を歌う会があります。泣いたり笑ったり、とても楽しい会です。

▽室蘭聖マタイ教会

司祭は月二度聖餐式を司式して下さいますが、その他の主日は信徒によりみ言葉の礼拝が守られています。司祭は来られない主日、福音書に基づき説教を送って下さるの  
で、礼拝の中で用いています。教会員も高齢化が進み体調不良の方が何名かおられ、白藤啓子姉も二週間程入院されました。毎月の愛餐会の準備も特定の人に片寄りがちなので、今後弁当に切り替えたいと考えています。

二六日の主日は三教会の合同礼拝で、室蘭から四名が参加し旧交を温めました。

▽網走聖ペテロ教会

肌寒い日や蒸し暑さの五月日々体調を気遣う私達です。

二六日オホーツク三教会合同礼拝が持たれ、今年も当教会が当番。この日に備え準備してきました。紋別・北見また札幌から雨宮夫人も来られ、二六名の集いでした。共にお声をかわし再会を喜び合いました。

また共に賛美と祈りを捧げ阿部司祭の説教に耳をかたむけました。その後は自己紹介を兼ね一言ずつ話され、今まで聞くことがなかった人生の思い出話に神様の豊かな恵みを感じた一日でした。感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

窓の雪囲いが五月三日に取り外され、一日には岡家の納骨式と逝去者記念の式が執り行われ、一九日には国際ギデオン協会の方々が見えられ報告と証しの時を持ってください、二六日にはオホーツク三教会合同礼拝が網走聖ペテロ教会であり、高橋農夫也さん、玲子さん、岡嘉彦さん、瑛子さん、鴻上啓子さん、椿

田和子さんの六名が参加。一人一人のトークタイムでは笑い

いと感動に満ちたお話をしてくださいました。

雪が融けたと思つたらもう草刈りが必要になりました。

▽平取聖公会

筆者の長男が栃木県那須塩原市にあるアジア学院で働いています。その学院にブラジルのメソジスト教会から派遣されていた二五歳の青年が一年半の勤務を終え、帰国前に平取町の二風谷アイヌコタンと平取聖公会と札幌市を訪問したいとやって来ました。

日本に来た時は日本語も英語も片言であったが、学院の共通語が英語なので十分に会話が出来るようになったとのこと。日本語の会話は十分ではないがカタカナとひらがなは読めるようになったとのこと。宣教師として良い働きをして笑顔で帰っていきました。

▽深川聖三一教会

五月一六日、保育園職員会議で主任より消火器の取扱いと避難訓練の指導がある。

一六日よりの教役者会に甲斐司祭出席。一八日教区礼拝に

六名参加、旗手佐々木佳三さん、婦人会はバザー出店、胡瓜の佃煮、ブルーベリージャム好評で完売。協力に感謝。

二五日は市内在住菊入三恵さんの「チャペルコンサート」開催。実行委員長高木和枝さん、七〇名来場。鹿野友代さんにより当教会の宝「風琴」ペビートルガンでの伴奏も美しい音色と歌声(ピエ・イエス、アベ・マリア)に一同感激す。

▽旭川聖マルコ教会

みなさまお花見はされましたか?マルコ教会は五日主日の礼拝、逝去者記念礼拝の後、満開の桜の下でお弁当をひろげて行うことができました。感謝。最後に「そらのとりは」を歌い散会しました。

一八日の教区礼拝に一三名が出席、共に礼拝を守れたことに感謝!また一九日は「教区の日礼拝」を捧げ、宣教師の始まりに感謝し、これからも共に学んで行くことを祈りました。

八月には第一五回「道北四教会合同礼拝」が行われます。

全道、全国からの参加者募集中です。

▽苫小牧聖ルカ教会

今年も教会の桜が見事に奇麗に咲きました、聖ルカ園児も桜の下で記念撮影です。

五日に教会墓地で齊藤春生姉と神谷恒夫兄の納骨式を行いました。

一二日のみ言葉の礼拝後、マーマレードジャム作り、一八日の教区礼拝後のミニバザーに出品しました。

二六日は植松主教ご夫妻、大町司祭ご夫妻を迎え、有珠室蘭と苫小牧の胆振三教会合同礼拝を行いました。礼拝後幼稚園ホールで山菜をメインにした昼食を頂き、出席者全員が近況報告を行い交流を深めました。感謝。

